

わが国近代会計学と阿久津文庫の形成

工 藤 栄一郎

1 開題：阿久津文庫の来歴と本稿の課題

熊本学園大学付属図書館には「阿久津文庫」と称する簿記会計を中心とした洋書コレクションが設置されている。前稿「熊本商科大学の昇格と阿久津文庫」（『産業経営研究』第31号、91-112頁、2012年3月）においては、阿久津文庫が設置されるまでの経緯と、これら図書の前持ち主である阿久津桂一の人物像について考察した。以下ごく簡単にではあるが、前稿での内容をふりかえることから始めていく。

(1) 熊本商科大学への昇格

熊本学園大学は、1938（昭和13）年に設立された熊本県支那語学校をその発祥とする。同校は、中国大陸をはじめとして当時の日本人の外国進出の増大を背景とした社会的要請にこたえるために設立されたものであった。その後、熊本県支那語学校は、1942（昭和17）年に専門学校令に準拠した東洋語学専門学校へと展開した。同校は、第2次世界大戦での敗戦後も、熊本語学専門学校と改称して存続した。同校にとっての大きな転機は「学校教育法」の公布であった。

それまでの日本の教育制度は、「小学校令」「中学校令」「大学校令」「専門学校令」など、学校の種別ごとにその規則が構築されていた。その結果、総体として複雑な教育制度が存在していたが、新しい学校教育法は、幼稚園から大学までのすべての教育過程を単一の法令のなかを含めることで単純化しかつ体系的な教育課程を有する学制の実現を可能とした。だがこの制度

改革によって、熊本語学専門学校など旧制度下における専門学校にとっては、新たな問題に直面させられることとなった。

旧専門学校は、旧制の大学・高等学校・高等師範学校などと同様に、高等教育機関として位置づけられていた。新しい制度のもとではこれら旧制の高等教育機関は申請の4年制大学に一本化して再編されるようになった。しかしながら、すべての学校が新制の大学へと移行できたわけではない。なかでも専門学校は、新制の高校へ「降格」するかあるいは廃校を余儀なくされたところも少なくない。

熊本語学専門学校は、新制の大学への移行を目標とした。1949年8月31日付けで「熊本外国語大学設置認可申請書」を文部大臣宛に提出した。だがしかし、この申請は実現しなかった。新制大学の設置認可の条件を定めた「大学設置基準」の要件を満たすことができず、申請は取り下げられることとなった。新制大学移行の実現をみなかったのは熊本語学専門学校だけでなかった。多くの専門学校が大学への昇格を果たすことができないという事態が生じた。このような制度的空白を補うために、政府は修業年限が2年もしくは3年の「短期大学」という機関を新たに置くこととした。短期大学は、あくまで、フルスペックである4年制の大学を目指す学校に対する暫定的な救済措置として当初は位置づけられたものであった。

4年制大学への移行をあきらめた熊本語学専門学校は、短期大学の設置へその方針を切り替えた。この方針転換は教育内容にも影響を与え

た。当初計画していた熊本外国語大学は外国語教育のみの単科大学を志向したものであったが、短期大学の設置に関しては、地域や時代からの要請が強いと考えられた社会科と商科という教育内容が取り入れられた。1950（昭和25）年、熊本短期大学の申請は認可され開学に至った。

しかし、4年制大学への移行の夢は潰えることなく、熊本短期大学の開学から3年目の1953（昭和28）年9月28日に「熊本商科大学設置認可申請書」が文部省に送達された。熊本短期大学設置の際に新設した「商科」を発展させ、これを基礎に4年制大学への昇格をはかったのである。同年10月には大学設置審議委員と文部省の事務官が実地調査のために来訪したが、その際、教授陣、図書、研究施設、資産状況等に問題点があるとの示唆を受けた。図書に関しては、「熊本商科大学設置認可申請書」においては、所蔵数1万6千冊あまりとある。この所蔵図書数に対しては十分でないとの自覚があったようで、同申請所のなかに近い将来における図書の拡充計画が具体的に示されてもいる。だが、現実に図書に問題ありとの示唆を受けたことで、熊本商科大学の認可の実現のためには、可及的速やかに商業関係の専門図書の拡充が必要であった。

結果的に、300点をこえる簿記会計学関連の洋書をひとまとまりとして入手することが可能となった。熊本市で書店を営む樋口欣一氏の仲介によってこの図書は熊本へ移転された。樋口氏は東京商科大学の卒業生であり、これら図書は、学生時代に教えを受けた阿久津謙二東京商大教授の自宅に所蔵されていたものだった。阿久津謙二教授は英語学の研究者教育者であり、その専門は会計学ではない。熊本に移転してきた300点をこえる簿記会計学の図書類は、謙二の長男であり若くして夭逝した阿久津桂一が生前に収集したものであった。阿久津親子（謙二

と桂一）の書齋には3千冊ほどの本があったという。じつにそのうちの1千冊ほどは桂一のものであったらしい。阿久津桂一は自分が所有する1千冊の本のうちどれがどこにあるか、眼をつぶっても探しあてるほどに親しんだものだったという。

(2) 阿久津桂一

阿久津桂一は1913（大正2）年に現在の栃木県栃木市で生まれている。1932（昭和7）年に東京商科大学予科を卒業したあと、本科へと進学した。本科1年を終わるころに、将来の大学スタッフの候補として白羽の矢が立ち、2年生から吉田良三のゼミナールへ所属することとなり、このころから、阿久津桂一の実質的な研究者としての生活が始まる。本科の卒業後、1935（昭和10）年には吉田良三の助手となり、1937（昭和12）年には大学の助手として正式に採用され、翌38（昭和13）年4月の年度初めからは東京商科大学予科講師となった。しかし、同年12月20日には病気のため永眠した。

阿久津桂一の生涯は、このように、わずか25年間の短さであり、したがって、研究者としての実質的な活動もわずか3年間ほどのきわめて短い期間である。残された研究業績は、彼の死後の1940（昭和15）年に吉田良三の助力によって森山書店より出版された『減価償却に於ける時価論』¹という単行本と数編の論文だけである。書名となった「減価償却に於ける時価論」という論考は、1920年代の超インフレの状況下において、取得原価を基礎とした通常の減価償却手続きでは、企業経営とりわけ資産の取り替えに備えるべき財務的措置に支障をきたしたという問題を背景として、時価に基づいた減価償却の実務が主張をめぐる理論的な考察である。この問題をめぐって、当時のドイツ及びアメリカでは、相互に学問的交渉があったわけではな

¹ この『減価償却に於ける時価論』には、東京商科大学助手となるための資格審査資料として提出された総頁数120頁ほどの「減価償却に於ける時価論」という論文のほか、5編の論文が収録されている。

いけれども、それぞれの学界で激しい論争が繰り広げられた。この論考は、それらをていねいに紹介し、論点の推移や展開を整理したものである。その意味ではサーベイ論文の域を出るものではないが、阿久津桂一は独自の視点からこれらを批判し「会計学的意義」でもって減価償却における時価の問題を論じている。

阿久津桂一は、このように、当時の「現代的な」会計問題に取り組んだ研究者であった。

(3) 本稿の課題

現在、熊本学園大学附属図書館に収蔵されている阿久津文庫は、いまから60年ほど前の4年制大学である熊本商科大学設置に際しての不可欠な設備として備えられたものであり、そのコレクションは若くして亡くなった会計学者・阿久津桂一によって集められたものである。本稿での課題は、阿久津文庫の内容に立ち入ってその学問的意義を検討することである。阿久津桂一が学生および助手として活動した時代とその前後は、わが国においてはいわゆる「近代会計学」が展開していく時期と重なっている。わが国の会計学の展開とその近代化の過程のなかに、阿久津桂一が買い求め手に取り、自身の研究にとり込んでいった図書を照らしあわせることで、当時の会計学の状況を描出していこう。

2 わが国における会計学の展開

(1) 国家の近代化と簿記知識の輸入

日本の近世と近代を画期するのは、明治維新と呼ばれる19世紀中頃に生じた革命的な社会体制の改革の前後の時期である。新しく樹立された明治政府は、日本をアジアで最初の近代国家へと変貌させるべく、種々の改革を断行した。それは、中央官制・法制度・身分制度・地方行政・金融制度・経済政策・教育制度・外交・宗教政策など多岐に及ぶような、真新しい国家の建設作業であった。そしてこれらの改革は、その当初において、すべからく、西洋のものを移

入することを志向していた。つまり、新政府は種々の社会システムを西洋化することで国家の近代化を成し遂げようと基本的に考えたのであった。また、西洋化を通じて国家の近代化の実現を志向したのは新政府だけでない。経済界や教育界における当時のリーダーたちも同じ考え方を有していた。つまり、すべての改革者たちは西洋化を信奉したといえるのであった。

欧米の先進的な技術や知識を取り入れようと、法律・外交・医学・建築・土木・交通・産業・教育・芸術・軍事と多岐にわたる分野で多くの外国人を指導者（「御雇い外国人」）として高給で雇い入れた。金融や財政の分野も例外ではない。

貨幣制度改革のため、明治政府は、造幣寮の建設を1868（明治元）年に大坂において着手した。ここに設置された貨幣鑄造機械等は、ホンコンのイギリス造幣局に設置されていたものを開業の数年前に中古で購入したものであった。また、政府は機械装置だけではなく、貨幣鑄造技術の指導のために、ホンコンのイギリス造幣局長であったキンダー（Thomas William Kinder）を「造幣首長」として採用したことをはじめ、その他複数の外国人たちを雇い入れた。その中のひとりにブラガ（Vincente Emilio Braga）という人物がいた。ブラガはホンコン生まれのポルトガル人で「勘定役兼帳面役」として造幣寮に雇用され会計システムの運用をおこなった。造幣寮における会計は、複式記入によって取引がされ損益勘定とバランスシートが導出されるという、複式簿記の形態をとっている。

1875（明治8）年、ブラガは、大蔵省本省において雇用され、同省の会計システム改革の仕事に着手する。国家財政に対して会計記録による規律づけを有効にするため、大蔵省は、当初より制度の改革を繰り返し実施してきたが、いっそうの改革、とくに記帳方式の改革の必要を自覚していた。そして1876（明治9）年から大蔵省の会計システムは複式簿記へと進展することとなる。その後、政府会計への複式簿記の

採用は、大蔵省本省にとどまらず、すべての省庁と地方政府へ拡張されることになった。このように、日本の政府会計は、明治憲法とともに発布・施行された会計法が制定されるまでのあいだ、その当初においては複式記入システムを採用していたのである。

ブラガによって導入された上記の事例は、いずれも政府関連の組織における会計実践であるが、民間企業に移転した会計技術の事例について観察してみよう。

その最初にあげるべきは第一国立銀行である。近代的な銀行制度を整備するにあたり、アメリカ合衆国の国法銀行制度にならって、1872（明治5）年に「国立銀行条例」が制定された。1873（明治6）年に設立された第一国立銀行をはじめとして、この法律によって設立された銀行は1879（明治12）年までに153行にのぼった。これら銀行の業務全般に対して、政府は厳格な監督および指導をおこなった。とりわけ、会計システムに関しては統一的な制度の確立をはかった（西川[1982]21頁）。政府はスコットランド人の銀行家シャンド（Alexander Alan Shand）を雇用し、銀行経営のための会計システムを立案させると同時に、その技術指導をおこなうため銀行学局を開設しそこにおいて教育にも従事させた。

第一国立銀行は日本ではじめての商業銀行であると同時に民間資本によるはじめての株式会社である。しかしながら、銀行制度の整備それ自体が明治政府の主導のもとに企画されたものであり、採用される会計システムに至るまで、国家による主導の色彩が濃いと見える。

このように、西洋式の会計技術をその会計システムとして積極的に導入したのは、政府機関や銀行などある意味で特殊な組織である。これらの組織は明治以降になって確立したもので、当然、在来的な会計実践の慣行などもなかった。したがって、西洋式の会計システムを採用するにあたってはなんの軋轢も生じなかったと思われる。だが、西洋式の複式簿記をその会計シ

ステムの基礎として採用するにあたって、熟慮を重ねて慎重に選択した結果であったとも思われない。大坂造幣寮も第一国立銀行も、近代国家建設のために移入された経済システムあるいは社会システムに付随するものとして、会計技術が導入されたにすぎないと理解するのが自然である。

また、金融・財政といった経済システムの根幹に対して西洋式の会計技術を近代的組織に導入しようとした背後には、渋澤栄一という優れた経済人が存在した。渋澤は近代的な銀行だけにとどまらず、東京証券取引所、ガス会社、保険会社、製紙会社、セメント会社、鉄道会社などおよそ社会の近代化にとって必須の産業領域で、多くの企業を設立し経営者となった。そしてこれら企業のほとんどは、当初からその会計システムとして西洋式の会計技術を採用している。これらの他に、いくつかの企業が西洋式複式簿記を採用しているが、いずれにおいても共通するのは、明治維新後に設立された新興企業であること、その設立や経営に、大蔵省や銀行などで複式簿記実務を経験した人物、あるいはまた、後述する、慶應義塾や商法会議所など、福澤や渋澤が設置した教育機関において複式簿記の教育を受けた人物がかかわっていること、という特徴がある。

日本の近代は会計技術の知識化にとって最も重要な意味を有する。それは複式簿記に代表される会計技術が「教科書」として記述され、整備されていく近代的学校制度の中で普及していったことである。近世において、とくに寺子屋で使用される教科書あるいは手引書として、『商売往来』や『塵劫記』などが商人教育にとって有意義に機能した。しかし見落としてはならないのは、それら商人育成の手引等においては、会計技術について説明した記述はまったくみあたらなかったということである。このことは、中世末期からルネサンス期のイタリア商業都市において数多く著された商業算術の教科書のなかに、会計に関する記述がなかったことと同様

である。洋の東西を問わず、会計技術に関する知識は秘匿性・秘伝性の高いものであったと理解することができるだろう。

1873(明治6)年、日本近代化の象徴的思想家である福澤諭吉は、アメリカの初級簿記テキストであるブライアン(Henry B. Bryant)とストラットン(Henry D. Stratton)の著書 *Common School of Book-keeping* (1861) (の一部)を翻訳し、『帳合之法』(初編)として出版した。この時代の思想的指導者で教育者でもある福澤は、複式簿記による会計技術が日本の近代化にとって重要な要素であると認識していた。福澤は、明治維新の直前にアメリカやヨーロッパを訪問し、西洋の文明や文化に直接触れている。彼は、西洋の技術や制度や思想を紹介するために多くの西洋の文献の翻訳をおこない、また一般人を読者とした数多くの啓蒙的図書を執筆し出版した。これらを通じて、福澤は、西洋文明を積極的に受け入れることが日本の近代化を成し遂げることであるとする社会的思想の流れを形成したのである²。福澤が翻訳出版した簿記会計の著書は、当時のアメリカに多く展開した連鎖ビジネス学校のうち最大規模の商業学校で用いられていた簿記テキストである。それは日本にとっては、歴史的に見て、会計に関する一般向けの最初の著作物である。福澤は日本ではじめて会計に関する知識と技術をもたらしたのである。日本には近世においても組織経営に適合的な独自の会計の技術は実践されていた。その中には、高度に洗練された複式簿記と原理的には同等のものもあった。しかし、これら会計技術が刊行物において記述されることはなく、その技術が社会的な広がりを持って知識化することはなかった。したがって、日本において最初に社会化された会計の知識は、福澤によっ

て紹介された複式簿記ということである。

さらに、『帳合之法』は福澤がおこした慶應義塾だけにとどまらず、その後急速に整備されてゆく学校教育制度のなかで教科書として使用された。その意味において、福澤の最大の功績は会計知識の社会的な普及にあったといっている。

その影響の大きさを、ほぼ同時期に第一国立銀行の会計システムを立案したシャンドによる簿記技術指導内容をまとめた『銀行簿記精法』が大蔵省より出版されている。その初版こそ1,000部である(西川[1982]24頁)が、銀行学局という特殊な場で限られた者のみを教育の対象者としていたこと、内容が銀行簿記であるということから、会計知識の社会的な普及に対して直接的な貢献の度合からすると、『帳合之法』には及ばないと思われる³。

知識の社会的規模での伝達・普及について、福澤は有利な立場にあった。それは、福澤自身が版下から販売までに至る一連の出版事業すべてを営んでいたからである(玉置[2002]97頁)。1872(明治5)年に初版が出された『学問のすゝめ』は、全17編あわせてであるが、のべで340万部が全国で売れたという。『帳合之法』の販売部数がどれほどであったか正確にはわからないが、近代日本の思想的リーダーであった福澤が出版する本はおそらくどれも多く売れたものと推察できるので、シャンドの『銀行簿記精法』に比べると、刊行物としての直接的な影響力ははるかに大きいものだったのではないだろうか。

(2) 簿記知識の普及

福澤が設立した慶應義塾(現在の慶應義塾大学)では、当時の先端的な知識や技術そして思想が教えられた。しかも、そこでの基本となる考え方は、実際に役に立つ学問、すなわち、「実

² 黒澤[1982]は、『帳合之法』を福澤の近代化思想の象徴の1つであるとして、『学問のすゝめ』とあわせて、文化的・思想的観点から考察している。

³ しかしながら、銀行学局での簿記教育によってシャンドの影響を直接または間接的に受けた少ない者たちはその後産業界の各方面で活躍し、そこにおいて西洋式会計技術の移転に貢献している。しかしそれは会計実践としての技術移転であり、本稿で関心を持っている会計知識の社会的な普及ではない。

学」を標榜するものであった。そしてここで学んだ多くの者が、明治期の日本において指導的立場に立った。また後述するように、慶應義塾あるいはこれに関連またはこれから派生する教育機関において、会計知識を学んだ者たちのなかには、他の簿記書を翻訳したりあるいは類書を出版した者もあるし、あるいは、明治初年にわたって整備されていく学校教育制度のなかで簿記教育に従事した者が少なくない。

福澤の啓蒙的思想は慶應義塾で学んだ多くの者たちを通じて日本中に広まることとなる。複式簿記の「社会的意義」も教育を通じて浸透していく。福澤が翻訳した教科書を起点に、それから多くの簿記書が派生し、それらは急速に整備された日本の学校教育制度のなかで教科書として使用された。驚くことに、複式簿記は初等教育においても教育されたのである。学校教育制度を通じて、複式簿記を知識として日本に普及したことに福澤の最大の貢献があるといえるだろう。また、実業家である渋沢栄一も複式簿記知識の普及に努力をしている。指導的経済人を育成するために、商業教育をおこなう高等教育機関の必要性をいち早く認識し、商法講習所（現在の一橋大学）の設立に奔放し、もちろんそこでは複式簿記を含む教育がおこなわれた。

1872（明治5）年にわが国はじめての学校教育制度である学制が公布された。そこにおいて、上等小学と中学の教科課程として「記簿法」が置かれている⁴。実際に、これら学校でどのような会計教育がおこなわれていたかその具体的内容については明らかでないが、学制公布後の1873（明治6）年から毎年公表されている『文部省年報』によれば、1876（明治9）年の第4年報から数年の間、小学校で採用された書籍の

なかに福澤の『帳合之法』や、加藤斌が翻訳した『商家必用 記簿法 単認之部』、それに文部省が出版した小林儀秀の翻訳による『馬耳蘇氏記簿法』などが確認される。また、とくに1870年代末以降の数年間において、初等レベルの簿記教科書の出版が続いている⁵。つまり、専門教育としての商業教育においてではなく、初等教育の水準においてはやくも会計技術の知識伝達がおこなわれていたことが推察されるのである。このようなことを可能にしたのは、充実した庶民教育の実践と大量の教科書を発行する技術とそれを全国規模で供給できるシステムすでに近世において十分に整っていたことがその基礎にあることは間違いないだろう。

その後、1879（明治12）年の「教育令」の第8条において商業学校の規定が置かれ、さらに、1884（明治17）年の「商業学校通則」によって商業教育の制度化が確固としたものとなり、会計技術の教育に関連する学校教育制度は、初等レベルの普通教育から中等レベル以上の専門教育へと展開していくこととなる。

このように、近代日本における会計技術の知識は、国家による学校教育制度に組み込まれることで社会的な性格を強く帯びたものとなっていった。学校という知識の伝達装置によって、会計技術は、国家によって編成されたカリキュラムすなわち「体系立てられた知識」として社会のなかに存在することとなる。この点において、中世末期からルネサンス期にかけてのイタリア商業都市においてみられた会計知識の社会化と、近代日本のそれとでは大きな意味の違いがあるといえる。近代化を、西洋化することととらえて、他の先進的なテクノロジーや社会制度と同様に会計技術も位置づけられ、その結果、

⁴ 学制は、学校を、大学・中学・小学に分け、さらに小学を下等小学4年と上等小学4年に、中学を下等中学3年と上等中学3年に分けてそれぞれにおいて学ぶべき教科を列挙している。上等小学における「記簿法」は、事情によって学科目拡張する場合、すなわち増加科目としてあげられている。

⁵ たとえば、石井義正『複式啓蒙記簿階梯』、森下岩楠 他『簿記学階梯』、遠藤宗義『小学記簿法』、安部迪吉『初学必携通俗簿記法』、城谷謙『小学記簿法独学』、呉新一『簿記学精理』、塚田正教『小学記簿法初編』、吉田忠健『小学記簿法』、山田尚景『小学簿記法』など多数ある。

国家的主導で企画された近代的学校教育制度に組み込まれることで、その知識は社会化したものとなって現出することになったのである。

(3) 簿記学の時代

わが国における学術としての会計は、まず簿記学として成立した。前期のように、明治の近代化過程において、西洋式の会計技術は学校教育の整備とともに急速に社会に普及していった。

前述のように、最初期の簿記書には、福澤諭吉の翻訳による『帳合之法』（初編/後編）およびアラン・シャンドの『銀行簿記精法』という象徴的な2冊のほか、文部省役人であった小林儀秀が翻訳した『馬耳蘇氏記簿法』（1875）がある。小林は、幕末に福澤の慶應義塾に「入社」している。

原書はアメリカ人の簿記教師であり会計士であったマーシュ（Christopher C. Marsh）の *A Course of Practice in Single-entry Book-keeping* と *The Science of Double-entry Book-keeping* を翻訳したものである。両書ともアメリカではポピュラーな簿記教科書であり、とくに複式簿記を取り扱う後者は数十年にわたって重版された。翻訳にあたって小林が底本としたのは、いずれも1871年の版である。本訳書の特徴は、学制発布ともなって整備された近代的な「学校」の教科書として製作され、文部省から刊行されたものであるということである。驚くべきことではあるが、使用が想定された学校は、中学校や師範学校に加えて、小学校を含んでいた。『馬耳蘇氏記簿法』はわずか数年のあいだに数十版も版を重ね、日本中に簿記の知識を普及させる媒体のひとつとなった。

このように、明治時代の前半は、福澤の『帳合之法』、シャンドの『銀行簿記精法』、そして小林の『馬耳蘇氏記簿法』の3冊が淵源となって、西洋式の簿記が広まったのである。しかし、そこから派生した簿記書のほとんどは、3冊の異本であったり、あるいは他の米英の簿記書の翻訳または実質的にはそれら訳本の異本であっ

たりして、西洋式簿記技術や知識を学術的な水準に引き上げたものはみられなかった。しかし、明治中期までに、300冊ほどの簿記書が出版された。まさに日本の近代会計は簿記の時代として始まったといえるだろう。

模倣西洋簿記の時代に区切りをつけたのが下野直太郎による『簿記精理 第一編』（1895）である。明治前期に簿記書にも、複式記入に関する論理的説明をおこなったものは多くあったが、それらはフォルサム（Ezekiel G. Folsom）の価値の等価交換にもとづくものを紹介したにすぎなかった。しかし、下野は、こんにちの簿記教科書で説明がみられる「取引要素説」の基礎となる「計算原素」説をこの本のなかで展開している。つまり、下野は、わが国独自の簿記の論理を考案した最初の論者といえるのである。複式記入に関する下野の着想は、その後の簿記書、とりわけ吉田良三の『商業簿記学』（1904）や『甲種商業簿記教科書』（1912）などに継承されわが国固有の簿記学として展開されていった。

近代の始まりとともに輸入された西洋式複式簿記は、初期から中期にかけての模倣と普及の時代を経て、独自の論理を展開した後期に至って、ひとつの時代を形成したといっていいたいだろう。

(4) 近代会計学の形成

わが国で最初に「会計学」の名称をつけた単行本は、阿久津桂一の指導教授となり上司にもなった、吉田良三による『会計学』（1910）である。よく知られていることだが、この本の内容はアメリカの会計学者ハットフィールド（Henry R. Hatfield）の *Modern Accounting* にかなりの部分を依拠しており、吉田独自の会計学を叙述したものではない。しかし歴史的にみると、それまでの簿記学＝会計学だったわが国の会計研究を前進させる転換点に位置したものであると評価できる。しかも、ハットフィールドの原著が刊行された（1909年）のわずか1年後に吉田はこの内容を紹介しているのである。ちなみ

に、原著の翻訳は、吉田の『会計学』からくだること2年後に、海老原竹之助によって『ハットフィールド最近会計学』(1912)として出されている。

「会計」という名称をつけたそのほかの著書としては、且睦良『会社会計論』(1914)や東夷五郎『商業会計第二輯』(1914)などがある。また、「経理」という表現を用いた、鹿野清次郎『経理学提要(上)(下)』(1915/17)も出ている。同書の上巻は、イギリスのピクスレー(Francis W. Pixley)の *Accountancy: constructive and recording accountancy* (1908) に、下巻は *Auditors: their duties and responsibilities* (1881) に依拠したものである。会計学と監査論をまとめたものとして意義ある著作である。鹿野は、*accounting* ということばについて「経理」という訳語の使用を主張し、「会計」という用語を主張する論者(その代表は中村茂男: 当時は明治大学講師)との論争を起こすこととなった。

また、簿記学を超えて、独自の学問的構想がみられるのは、下野直太郎の『計算学』(1913)である。本書は、講義用資料であって、公刊された著書ではない。したがって、本書を通じて下野の構想(「収支説」)が社会に広く知られることはなかった。だが、ほぼ同様の内容が1929年にニューヨークで開催された第3回国際会計会議に提出された論文「貸借対照表の本質と形式」(“The Nature and Form of Balance Sheet”) (同論文は日本会計学会『會計』第24巻第4号に掲載されている)で明らかにされている。

学問としての会計学の成立を語る場合、学術組織の形成について触れる必要がある。1917年3月、日本会計学会が創設された。発起人には、下野直太郎、中村茂男、東夷五郎、水島鉄也、吉田良三などが名前を連ねている。しかしこの学会は、研究者だけでなく、企業の経営者や経理担当者なども会員として含めたものであった。実際、発起人のなかには、わが国「損害保険業界の父」といわれる東京海上保険会社社長の各務鎌吉がいた。またすでに述べている

が、日本会計学会は機関誌『會計』を発刊した。

わが国の会計学研究は1920年代に入る頃から深化と多様化をみせはじめる。そのひとつが、ドイツ会計学「貸借対照表論」(*Bilanzlehre*)の撰取である。代表的な文献として、国松豊『貸借対照表論』(1919)、上野道輔『貸借対照表論(上)(下)』(1925/26)などがある。国松の著作はゲルストナー(Paul Gerstner)の *Bilanz-Analyse: ein Führer durch veröffentlichte Bilanzen* (初版: 1912) に、上野の著作はシェアー(Johann Friedrich Schär)の *Buchhaltung und Bilanz* (初版: 1914) に、それぞれ依拠したものである。だが、いわゆる動態論の嚆矢となる、シュマーレンバッハ(Eugen Schmalenbach)の『動的貸借対照表論の基礎』(*Grundlagen dynamischer Bilanzlehre*)が刊行されたのが1920年であり、静態論・動態論・有機論など多彩な議論が展開されていた当時のドイツ会計学界のことを考えると、わが国の貸借対照表論はその動きを適時的にフォローしていたとはいいがたいかもしれない。

1930年代が近づくころになると、原価計算・管理会計の分野での文献がみられるようになる。その先駆となるのは、大正時代に公刊された吉田良三『工場会計』(1917)である。昭和に入ると、陶山誠太郎『工業簿記』(1928)、長谷川安兵衛『原価会計学』(1930)などがあられる。また、「管理会計」という用語を用いたものもみられるようになりその最初期の文献が青木倫太郎『管理会計』(1936)である。類似の表現として「統制」を用いた長谷川安兵衛『統制的會計』(1937)や会計領域に「経営」の用語をとり入れた古川栄一『経営計理論(前編)(後編)』(1937)などがある。吉田良三『間接費の研究』(1936)は博士号学位請求論文を基礎にした大著である。

会計学の個別の論点を取り上げた文献もみられるようになった。いくつかあげると、高瀬荘太郎『暖簾の研究』(1930)、同『グッドウキ

ルの研究』(1933)、太田哲三・岩田巖『インフレーション会計』(1933)、太田哲三『財務諸表準則解説』(1933)、竹中龍雄『公益企業会計』(1935)などがある。太田の『財務諸表準則解説』は、1934年に商工省臨時産業合理局・財務管理委員会によって公表された「財務諸表準則」を解説したものである。わが国の最初の会計原則ともいうべきものであり、その策定にあたっては阿久津桂一の指導教官である吉田良三や太田哲三が主要な役割を果たした。

このように、わが国の近代的な会計学は、簿記学を超えて、欧米の会計学研究をとりいれながら、原価計算・管理会計の分野への拡張をみせ、会計原則の設定まで到達したのである。このような会計学近代化は、日本会計研究学会の設立に帰結する。前期の日本会計学会は研究者からのみ構成される学術団体ではなかった。純粋な学術団体を志向して、吉田良三の提唱によって、1937年に創立理事会在開催され、翌1938年5月に日本会計研究学会第1回大会が開催され、同学会は設立された。

3 阿久津文庫の構成と日本近代会計学の確立

(1) 概要

熊本学園大学付属図書館に所蔵されている阿久津文庫は簿記会計学関連の洋書300点あまりから構成されている。冊数でいうと318冊からなるが、このうちの1冊は雑誌の1号(Magazin der Wirtschaft vereinigt mit "Plutus" 1929. 5. Jahrg.)であり、また32冊に分冊されて刊行されたニクリッシュ(Nicklisch)による経営経済学の事典(*Handwörterbuch der Betriebswirtschaft*, 2. Aufl)が含まれているので、単行本としては、286冊からなるコレクションである。これらを、会計学の分野としては、「簿記」「会計」「原価計算」と3種に区分し、それ以外のものを「その他」とし、さらに記述されている言語の種類として、「ドイツ語」「英語」「イタリア語」「フランス語」「オランダ語」の5つに区分して整理したものが、以下の資料1である。

資料1 阿久津文庫の構成

	簿記	会計	原価計算	その他	小計
ドイツ語	35	66	18	73	192
英語	9	42	13	12	76
イタリア語	0	7	1	0	8
フランス語	1	2	1	4	8
オランダ語	1	1	0	0	2
小計	46	118	33	89	286

これによると、阿久津文庫のなかでもっとも多くの割合を占める学問領域の区分としては、「会計」(118冊)であることがわかる。次いで、「簿記」(36冊)、「原価計算」(33冊)と続く。また、記述されている言語としては、「ドイツ語」がもっとも多く(192冊)、次いで「英語」(76冊)となる。なお、少数ではあるが、「イタリア語」(8冊)、「フランス語」(8冊)、「オランダ語」(2冊)の図書も確認できる。

これ以降、学問領域の区分ごとに、阿久津文庫を構成する図書の内容について観察していく。なお、掲げている資料には、著者・書名・言語・刊行年のデータが示されているが、刊行年については、現物の書誌データに基づいており、同じ版で増刷されていると思われるものはその初刷ではなく実際に発刊された年を示している。

(2) 「簿記」関係図書

資料2は、阿久津文庫280点あまりの図書のうち、「簿記」と分類した46冊のリストである。言語によってさらに区分すると、ドイツ語が35冊、英語9冊、それにフランス語とオランダ語が1冊ずつである。

目立つのはいわゆる勘定学説(勘定理論)に関係する主としてドイツ語による著書である。複式簿記構造を論理的に説明した所説を歴史的に論じたゴンベルグ(Gomberg)(1926)[14]をはじめとし、物的二勘定学説(あるいは純財産学説)を展開するシェアー(Schär)の一連の著作[34]~[41]などである。興味深いのは、勘定学説としてはユニークな「循環学説」を主張したビーダーマン(Biedermann)(1922)[2/3]やパーペ(Pape)[31]、それにホルツァー(Holzer)(1936)[17]およびユチ(Juzi)(1936)[18]などをみることができる。

複式簿記を一貫した論理でもって説明しようとする研究はわが国においてもさかんに展開された。前述のとおり、下野直太郎の『簿記精理第一編』(1895)をはじめとして独自の簿記理論の提示が明治時代からおこなわれてきた。阿久津桂一の時代においては、(やや時代はさかのぼるが)指導教官である吉田良三の『最新式近世簿記精説』(1914)、シェアーの物的二勘定学説に依拠した上野道輔『簿記原理』(1922)や同著『簿記原理大綱』(1933)などがある。また、勘定学説研究としては、吉田ゼミの同門で阿久津桂一の先輩にあたる畠中福一⁶の『勘定学説研究』(1932)、黒澤清『簿記原理』(1934)、それにゴンベルグを翻訳した岡田誠一(訳)『ゴムベルグ批判的勘定学説史』(1935)などがある。

また、簿記史に関するものもみることができる。ドイツ簿記史に関するペンドルフ(Penndorf)(1913)[32]、商業算術とあわせて簿記の歴史を論じたマレイ(Murray)(1930)[29]、それに主要な簿記書の書誌情報も提供しているエルドリッジ(Eldridge)(1931)[12]は、現在入手が可能な1954年のフラン克蘭ドによる改訂版ではなく、初版であり貴重である。パチョーリの『スンマ』の簿記に関する記述のみを英訳したクリベリ(Crivelli)(1924)[9]もある。

また、英語による一般的な簿記教科書であるコール(Cole)(1915)[8]、ディクシー(Dicksee)(1908)[10](1919)[11]などもみられる。

⁶ 畠中福一は東京商科大学を1931年に「抜群の成績」で卒業後、吉田良三の後継者となるべくただちに「捕手」となったが、同年12月に急性脳膜炎のために死去した。『勘定学説研究』は畠中の死後に、吉田の手によって編集され出版されたものである。本書は名著としての誉れが高く、複数回にわたって増刷された。また、畠中が夭逝したことで、阿久津桂一は畠中の後任として大学に残ったのである。

資料2 阿久津文庫を構成する「簿記」関係図書

番号	著者	書名	言語	刊行年
1	Beigel, R.	<i>Leitfaden der einfachen und doppelten Buchführung : für kaufmännische Fachschulen und zum Selbstunterricht</i>	ドイツ語	1897
2	Biedermann, H.	<i>Leitfaden der Buchhaltung mit Musterbeispielen und Aufgaben für Handelsschulen 1(Lehrmittelsammlung des Schweiz. Kaufmännischen Vereins)</i>	ドイツ語	1922
3	Biedermann, H.	<i>Leitfaden der Buchhaltung mit Musterbeispielen und Aufgaben für Handelsschulen 2(Lehrmittelsammlung des Schweiz. Kaufmännischen Vereins)</i>	ドイツ語	1922
4	Buhl, Herbert	<i>Die geschichtlich begründete Kontentheorie</i>	ドイツ語	1929
5	Calmes, Albert	<i>Die Fabrikbuchhaltung 2., umgearb. u. verm. Aufl.(Handels-Hochschul-Bibliothek:Bd. 1)</i>	ドイツ語	1915
6	Carlill, J. A.	<i>The principles of bookkeeping</i>	英語	1896
7	Carter, R. N.	<i>Advanced accounts : a manual of advanced book-keeping and accountancy for accountants, book-keepers and business men</i>	英語	1926
8	Cole, William Morse	<i>Accounts, their construction and interpretation for business men and students of affairs Rev. and enl. ed</i>	英語	1915
9	Crivelli, Pietro	<i>Lucas Pacioli, printed in Italian black letter, and published in Venice in 1494/translated for the Institute of Book-Keepers Limited, An original translation of the treatise on double-entry book-keeping</i>	英語	1924
10	Dicksee, Lawrence R.	<i>The ABC of bookkeeping(Longman commercial series)</i>	英語	1908
11	Dicksee, Lawrence R.	<i>Bookkeeping for company secretaries 6th ed</i>	英語	1919
12	Eldridge, H. J.	<i>The evolution of the science of book-keeping</i>	英語	1931
13	Frömming, H.	<i>Die doppelte buchführung : eine praktische anleitung : zur gründlichen erlernung der doppelten u. amerikanischen buchführung durch selbstunterricht</i>	ドイツ語	1897
14	Gomberg, Léon	<i>Histoire critique de la théorie des comptes</i>	フランス語	1929
15	Götze, Hermann	<i>Logik der buchführung(Betriebswissenschaftliche Bücher:Bd. 13)</i>	ドイツ語	1930
16	Hasenack, Wilhelm	<i>Grundlagen und Technik der kaufmännischen Buchführung(Gloeckners Handels-Bücherei:Bd. 125)</i>	ドイツ語	1935
17	Holzer, Hans	<i>Zur Axiomatik der Buchführungs- und Bilanztheorie : Versuch einer Theorie der Buchführungs- und Bilanztheorien</i>	ドイツ語	1936
18	Juzi, O.	<i>Die Rechnungstatsachen in der Buchhaltungstheorie(Mitteilungen aus dem handelswissenschaftlichen Seminar der Universität Zürich:n. F., Heft 56)</i>	ドイツ語	1936
19	Kalbfleisch, Fritz	<i>Die Buchführung im Bankgeschäft(System Schär-Langenscheidt kaufmännische Unterrichtsstunden : vollständiger Lehrgang der praktischen Handelswissenschaften für den Selbstunterricht:Kursus 1, Buch 5)</i>	ドイツ語	1929
20	Kalveram, Wilhelm	<i>Kaufmännische Buchhaltung 2., neubearbeitete Aufl.</i>	ドイツ語	1935
21	Klein, Friedrich	<i>Die amerikanische Buchführung 17. Aufl.(Gloeckners Handels-Bücherei:Bd. 21)</i>	ドイツ語	1923
22	Koopman, S. Bernard and Roy B. Kester	<i>Fundamentals of accounting : principles and practice of bookkeeping vol. 1</i>	英語	1924
23	Latorf, G. F.	<i>Het dubbel boekhouden praktisch toegepast op naamlooze vennootschappen assurantie bankiers-consortium en Conto à Meta</i>	オランダ語	1904

24	Loenertz, Paul	<i>Die Formen der Gewinn- und Verlustrechnung(Ergänzungsbände zur Zeitschrift für handelswissenschaftliche Forschung:Bd. 9)</i>	ドイツ語	1926
25	Lüdke, Hermann	<i>Buchhaltung(Sammlung Göschen:1046)</i>	ドイツ語	1931
26	Meyerheim, Hugo	<i>Rationelles Buchführen : zwangläufige Kontrolle über Tagesleistung, zahlenmäßige und sachliche Richtigkeit in der Buchführung, Darstellung einer vollautomatischen Buchführungs-Maschine(Moderne Handelsbroschüren)</i>	ドイツ語	1925
27	Miller, Maria	<i>Die Berücksichtigung von Geldwertschwankungen in Buchhaltung und Bilanz</i>	ドイツ語	1932
28	Müller-Bernhard, H.	<i>Die getrennte doppelte Erfolgsrechnung : eine Untersuchung über das Verhältnis der Bilanz zur Gewinn- und Verlustrechnung zum Zwecke der Vervollkommnung der industriellen Erfolgsermittlung</i>	ドイツ語	1928
29	Murray, David	<i>Chapters in the history of bookkeeping accountancy & commercial arithmetic</i>	英語	1930
30	Oswald, Gottfried	<i>Das Verhältnis der Buchhaltungslehre zur Sozialökonomik</i>	ドイツ語	1923
31	Pape, Ernst	<i>Grundriß der doppelten Buchführung aus dem Wesen der kaufmännischen Unternehmung erklärt 2., verb. Aufl</i>	ドイツ語	1921
32	Penndorf, Balduin	<i>Geschichte der Buchhaltung in Deutschland</i>	ドイツ語	1913
33	Penndorf, Balduin	<i>Buchhaltung und Bilanz : auf wirtschaftlicher, rechtlicher und mathematischer Grundlage für Juristen, Ingenieure, Kaufleute und Studierende der Privatwirtschaftslehre, mit Anhängen über "Bilanzverschleierung" und "Teuerung Geldentwertung und Bilanz" 5., durchgesehene und erw. Aufl</i>	ドイツ語	1922
34	Schär, J. F.	<i>Das sterbende Buch in der Buchhaltung : einschließlich eines Abschnittes über die Loseblatt-Buchhaltung vom Standpunkt des Rechts 2. Aufl</i>	ドイツ語	1921
35	Schär, J. F.	<i>Grundlagen der Buchhaltung einfache Buchhaltung 6. Aufl(System Schär-Langenscheidt kaufmännische Unterrichtsstunden : vollständiger Lehrgang der praktischen Handelswissenschaften für den Selbstunterricht:Kursus 1, Buch 1)</i>	ドイツ語	1927
36	Schär, J. F.	<i>Doppelte Buchhaltung Grundsätze und Aufbau 6. Aufl(System Schär-Langenscheidt kaufmännische Unterrichtsstunden : vollständiger Lehrgang der praktischen Handelswissenschaften für den Selbstunterricht:Kursus 1, Buch 2,1)</i>	ドイツ語	1927
37	Schär, J. F.	<i>Doppelte Buchhaltung die verschiedenen Formen 16. Aufl(System Schär-Langenscheidt kaufmännische Unterrichtsstunden : vollständiger Lehrgang der praktischen Handelswissenschaften für den Selbstunterricht:Kursus 1, Buch 2,2)</i>	ドイツ語	1927
38	Schär, J. F.	<i>Buchhaltung der Gesellschaftsunternehmungen 16. Aufl(System Schär-Langenscheidt kaufmännische Unterrichtsstunden : vollständiger Lehrgang der praktischen Handelswissenschaften für den Selbstunterricht:Kursus 1, Buch 3)</i>	ドイツ語	1928
39	Schär, J. F.	<i>Aufgaben zur Buchhaltung 16. Aufl(System Schär-Langenscheidt kaufmännische Unterrichtsstunden : vollständiger Lehrgang der praktischen Handelswissenschaften für den Selbstunterricht:Kurkus 1, Buch 7)</i>	ドイツ語	1930
40	Schär, J. F.	<i>Lösungen der Aufgaben zur Buchhaltung 16. Aufl(System Schär-Langenscheidt kaufmännische Unterrichtsstunden : vollständiger Lehrgang der praktischen Handelswissenschaften für den Selbstunterricht:Kurkus 1, Buch 8)</i>	ドイツ語	1930

41	Schär, J. F.	<i>Abhandlung über die Buchhaltung 1494(Quellen und Studien zur Geschichte der Betriebswirtschaftslehre:Bd. 2), Luca Pacioli/nach dem italienischen Original 1494 ins Leben und WerkDeutsche übersetzt und mit einer Einleitung über die italienische Buchhaltung im 14. und 15. Jahrhundert und Pacioli's</i>	ドイツ語	1933
42	Schigut, Eugen	<i>Automatische Buchführung in Gross- und Mittelbetrieben 2. Aufl</i>	ドイツ語	1925
43	Seidler, Gustav	<i>Einführung in die doppelte Buchhaltung mit besonderer Berücksichtigung der Bilanzlehre : auf wirtschaftswissenschaftlicher Grundlage 2. Aufl</i>	ドイツ語	1922
44	Stern, Robert	<i>Buchführung in einfachen und doppelten Posten 3. verb. Aufl(Sammlung Götschen:[115])</i>	ドイツ語	1908
45	Ziegler, Adolf	<i>Buchhaltungs-Aufgaben und Lösungen(Gloeckners Handels-Bücherei:Bd. 98)</i>	ドイツ語	1924
46	Ziegler, Otto	<i>Geheimbuchführung 3. Aufl(Gloeckners Handels-Bücherei:Bd. 15)</i>	ドイツ語	1922

(3) 「会計」関係図書

資料3は、阿久津文庫280点あまりの図書のうち、「会計」と分類した118冊のリストである。言語によってさらに区分すると、ドイツ語が66冊、英語42冊、イタリア語7冊、フランス語2冊、それにオランダ語が1冊である。

ドイツ語文献では、阿久津桂一の学部の卒業論文の主題となったとされる「有機的貸借対照表学説」を主張したシュミット (Schmidt) (1929) [99]をはじめ、動的貸借対照表論の主唱者であるシュマーレンバッハ (Schmalenbach) の第6版 (1933) [95]のほか、フィッシャー (Fischer) (1909) [15] (1913) [16]、コフェロ (Kovero) (1912) [50]、ゲルトマッヒャー (Geldmacher) (1923) [20]、ゲルストナー (Gerstner) (1925) [21] [22]、マールベルク (Mahlberg) (1921) [66]、(1923) [67]、(1926) [69]、それにル・クートル (le Coutre) の一連の著作など20世紀前半のドイツ会計学の代表的な文献がそろっている。

英語文献については、ハットフィールド (Hatfield) (1909) [31]、同 (1927) [32]、エスケレ (Esquerré) (1914) [14]、ペイトン (Paton) (1922) [78]、同 (1930) [79]、ケスター (Kester) (1925/30) [45/46]、同 (1933) [47] などのオーソドックスな会計学の理論書・教科書に加

えて、スコット (D R Scott) (1925) [103]、同 (1931) [104] やキャニング (Canning) (1929) [5] など独創的な論者の文献もみられる。

すでに当時においては、ハットフィールドやケスターなどの文献は邦訳がなされており (海老原竹之助『最近会計学』(1923)、沼田嘉穂『ケスターの貸借対照表論』(1932))、また、ドイツ会計学のシェアー、シュマーレンバッハ、シュミットについても、林良吉『会計及び貸借対照表』(1925)、山下勝治『シュミット有機観貸借対照表学説』(1934)、それに土岐政蔵『動的貸借対照表論 (上・下)』(1938/39) などが著されていた。

また、阿久津桂一の研究の主題である減価償却ならびに評価論について、ディクシー (Dicksee) (1934) [10]、セイラーズ (Sailers) (1915) [91] (1923) [92]、ローランド (Rowland) (1933) [89]、スウィニー (Sweeney) (1936) [111]、ワルプ (Walb) (1930) [114]、マールベルク (Mahlberg) (1925) [68]、ジェンキンソン (Jenkinson) (1929) [39]、リーガー (Rieger) (1936) [84] など、豊富な文献が豊富である。

当時のわが国の会計学研究としては、上掲の翻訳以外の代表的なものとして、太田哲三・岩田巖『インフレーション会計』(1933)、高瀬荘太郎『グッドウキルの研究』(1933)、佐藤孝一

『減価償却論』(1938)、山下勝治『ドイツ会計学理論』などがあげられる。

また、阿久津の研究課題である評価論の議論がさかんにおこなわれている、日本会計学会の機関誌である『会計』にかぎっても、原口亮平「金銭債権の評価」(1936)、田中藤一郎「カウチマンの評価論」(1937)、丹波康太郎「ハットフィールドの評価論」(1937)、沼田嘉穂「ケスターの評価論」(1937)、田島四郎「ペートンの評価論」(1937)、橋本誠「スケーニーの安定論」(1937)、古川栄一「メレロウィッチの評価論」(1937)、小菅敏郎「コペロの評価論」(1937)、久保田音二郎「オスバルの評価論」(1937)、土岐政蔵「シュマーレンバッハの評価論」(1937)、山下勝治「シュミットの評価論」

(1937)、渡部義雄「減価償却と評価」(1937)、山下勝治「コヴェロ貸借対照表評価論」(1937)、長谷川安兵衛「戦時経済と減価償却問題」(1939)、沼田嘉穂「逓減法償却に就て」(1939)、馬場克三「減価償却の概念と固定資産の本質」(1939) などがある。

このほか興味深いものとしては、会計史に関する英語文献が阿久津文庫のなかにみられる。グリーン (Green) (1930) [25]、リトルトン (Littleton) (1933) [64] などがそうである。当時、田中藤一郎による会計史研究の成果が『会計』などに公表されるようになったが、ペラガロなどに依拠した簿記史研究にかざられており、ここにあげた文献を素材とした研究の成果を多くみることがまだできていない。

資料3 阿久津文庫を構成する「会計」関係図書

番号	著者	書名	言語	刊行年
1	Behnsen, Henry und Werner Genzmer	<i>Unzureichende Abschreibungen Scheingewinne und Substanzverluste</i>	ドイツ語	1929
2	Bellini, Clitofonte	<i>Trattato di ragioneria applicata alle aziende private con una appendice sulle funzioni speciali del ragioniere, Nona edizione rinnovata e rimodernata</i>	イタリア語	1932
3	Bellini, Clitofonte	<i>Trattato elementare teorico-pratico di ragioneria generale 9a edizione riveduta ed accresciuta</i>	イタリア語	1921
4	Bünger, Fr., et al.	<i>Revisions- und Treuhandwesen : Die deutsche Volkswirtschaft seit 1914, Abschreibungen vom Zeitwert, Rechnungswesen der öffentlichen Hand Bilanzreform : Vorträge 19. Verbandstag, Leipzig(Verbandstagsvorträge des Verbandes deutscher Bücherrevisoren:Heft 19)</i>	ドイツ語	1928
5	Canning, John B.	<i>The economics of accountancy : a critical analysis of accounting theory</i>	英語	1929
6	Chamber of commerce of the United States of America Dept of manufacture	<i>Depreciation : treatment in production costs</i>	英語	1929
7	Couchman, Charles B.	<i>The balance-sheet : its preparation, content and interpretation</i>	英語	1924
8	Cropper, L. Cuthbert	<i>Accounting, 2nd ed</i>	英語	1925
9	Dickinson, Arthur Lowes	<i>Accounting : practice and procedure, 2nd ed</i>	英語	1922
10	Dicksee, Lawrence R.	<i>Depreciation, reserves, and reserve funds 6th ed(The Accountants' library:v. 26)</i>	英語	1934
11	Dörfel, Franz	<i>Die Goldbilanz in Österreich</i>	ドイツ語	1925
12	Enderlen, Elise	<i>Nominale und reale Bilanz</i>	ドイツ語	1936
13	Erlacher, Carl	<i>Die historische entwicklung der bilanzbedeutung in der Privatwirtschaft : von der Technischen Hochschule München zur erlangung der Würde eines Doktors der technischen Wissenschaften genehmigte abhandlung</i>	ドイツ語	1929

わが国近代会計学と阿久津文庫の形成

14	Esquerré, Paul-Joseph	<i>The applied theory of accounts</i>	英語	1914
15	Fischer, Rudolf	<i>Über die Grundlagen der Bilanzwerte</i>	ドイツ語	1909
16	Fischer, Rudolf	<i>Buchführung und Bilanzaufstellung nach Handelsrecht</i>	ドイツ語	1913
17	Fowler, R.F.	<i>The depreciation of capital : analytically considered(London school of economics and political science : studies in economics and commerce:no.3)</i>	英語	1934
18	Garnsey, Gilbert	<i>Limitations of a balance sheet</i>	英語	1929
19	Gebbe, O.	<i>Das Wesen der Bilanz und der Kaufmännischen Buchführung und die Aufstellung der Bilanzen bei der deutschen Reichspost, 4. und 5. Aufl(Post und Telegraphie in Wissenschaft und Praxis:Bd. 80)</i>	ドイツ語	1925
20	Geldmacher, Erwin	<i>Grundlagen und Technik der bilanzmäßigen Erfolgsrechnung(Betriebswirtschaftliche Zeitfragen:Hef 2. Wirtschaftsruhe und Bilanz:Teil 1)</i>	ドイツ語	1923
21	Gerstner, Paul	<i>Bilanz-Analyse : ein Führer durch veröffentlichte Bilanzen, 8 Aufl</i>	ドイツ語	1925
22	Gerstner, Paul	<i>Revisions-Technik : Handbuch für kaufmännische und behördliche Buchprüfung 4., durchgesehene und verb. Aufl</i>	ドイツ語	1925
23	Gitti, Vincenzo	<i>Ragioneria, 8. ed., riveduta(Manuali Hoepli)</i>	イタリア語	1929
24	Graham, Willard J.	<i>Public utility valuation : reproduction cost as a basis for depreciation and ratebase determination(Studies in business administration/vol/4, no/3)</i>	英語	c1934
25	Green, Wilmer L.	<i>History and survey of accountancy</i>	英語	1930
26	Großmann, Fritz	<i>Organisierung der Abschreibungen oder Bilanz-Kritik in der Notzeit</i>	ドイツ語	1920
27	Großmann, Hermann	<i>Die Abschreibung vom Standpunkt der Unternehmung insbesondere ihre Bedeutung als Kostenfaktor(Bucherei für industrie und Handel:Bd. 6)</i>	ドイツ語	1925
28	Großmann, Hermann	<i>Abschreibung und Steuer unter besonderer Berücksichtigung der neuen Abschreibungsfragen 2., Neubearb. Aufl(Bücherei für Bilanz und Steuern:Bd. 3)</i>	ドイツ語	1930
29	Hänsler, Friedrich	<i>Konjunktur und Bilanztheorie</i>	ドイツ語	1930
30	Hast, Karl	<i>Grundsätze ordnungsmässiger Bilanzierung für Anlagegegenstände 2. Aufl(Veröffentlichungen der Schmalenbach-Vereinigung:Bd. 1)</i>	ドイツ語	1935
31	Hatfield, Henry Rand	<i>Modern accounting : its principles and some of its problems</i>	英語	1909
32	Hatfield, Henry Rand	<i>Accounting : its principles and problems</i>	英語	1927
33	Hauck, Wilhelm Chr.	<i>Bilanztheorien : eine Rechnerische Grundlegung(Wirtschaftswissenschaft Wirtschaftspraxis:Bd. 1)</i>	ドイツ語	1933
34	Heberle, Helmut	<i>Geldwertänderung und Bilanz : Leichtverständliche Anleitung zur Berücksichtigung der Geldentwertung in der Bilanz(Moderne Handelsbroschüren)</i>	ドイツ語	1921
35	Hertlein, Adolf	<i>Die Kapital- und Erfolgsrechnung als Grundlage der Wirtschaftlichkeitsmessung(Betriebswirtschaftliche Abhandlungen/Bd/10)</i>	ドイツ語	1929
36	Horn, Max	<i>Zum Bewertungsproblem in der Jahresbilanz der Unternehmung : eine kritische Studie(Veröffentlichungen des Steuer-Instituts an der Handels-Hochschule Leipzig:Nr. 17)</i>	ドイツ語	1935

37	Huber, Theodor	<i>Wie liest man eine Bilanz? : Leicht fassliche Einführung in das Verständnis der Bilanzen, nebst einer Anleitung, das Geschäftsergebnis am Ende jedes Monats ohne Bilanz und Gewinn- und Verlustrechnung zu ermitteln 13.-15. unveränderte Aufl.(Moderne Handelsbroschüren)</i>	ドイツ語	1928
38	International Accountants Congress	<i>Het Internationaal Accountantscongres,</i>	オランダ語	1926
39	Jenkinson, Mark Webster	<i>The value of a balance sheet</i>	英語	1929
40	Jeske, Gustav	<i>Betriebswirtschaftliche Bilanztheorien und Steuerbilanzen</i>	ドイツ語	1927
41	Kalveram, Wilhelm	<i>Goldmarkbilanzierung und Kapitalumstellung : als Grundlage zukünftiger Bilanzgestaltung 2. Aufl. des Buches Praxis der Goldmarkbilanzierung(Bücherei für Bilanz und Steuern:Bd. 13)</i>	ドイツ語	1925
42	Kaner, H.	<i>A new theory of goodwill</i>	英語	1937
43	Kaner, H.	<i>Balance sheets : explained, analysed, and classified : a guide for investors, professional men and students</i>	英語	1938
44	Kastendieck, H.	<i>Die Wertveränderung durch Abschreibung, Tilgung und Zinseszinsen : Formeln und Tabellen zur sofortigen Ermittlung des Verlaufes und jeweiligen Standes eines Betriebs- oder Kapitalwertes : Zum Gebrauch für Ingenieure, Verwaltungsbeamte, Kaufleute usw.</i>	ドイツ語	1914
45	Kester, Roy B.	<i>Accounting theory and practice 2nd ed., rev v. 2</i>	英語	1925
46	Kester, Roy B.	<i>Accounting theory and practice 3 ed., rev v. 1</i>	英語	1930
47	Kester, Roy B.	<i>Advanced accounting 3rd rev. ed(Accounting theory and practice.v. 2)</i>	英語	1933
48	Klebba, W.	<i>Buchführung und Bilanz : ein Wegweiser für Juristen</i>	ドイツ語	1935
49	Klein, Joseph J.	<i>Elements of accounting : theory and practice Rev. ed</i>	英語	1927
50	Kovero, Ilmari	<i>Die Bewertung der Vermögensgegenstände in den Jahresbilanzen der privaten Unternehmungen mit besonderer Berücksichtigung der nicht realisierten Verluste und Gewinne</i>	ドイツ語	1912
51	Kurtz, Edwin B.	<i>The science of valuation and depreciation : application of mortality laws of physical property in estimating and accounting</i>	英語	1937
52	Kusmirek, Max	<i>Bilanz und Bewertung : Kritische Untersuchung der Behandlung des Problems in der Bilanzliteratur der Vergangenheit und Gegenwart</i>	ドイツ語	1929
53	le Coutre, Walter	<i>Zeitgemässe Bilanzierung : die statische Bilanzauffassung und ihre praktische Anwendung(Sonderreihe der betriebswirtschaftlichen Blätter:Hrsg. v. F. Dörfel, &c. Heft 4)</i>	ドイツ語	1934
54	le Coutre, Walter	<i>Praxis der Bilanzkritik:Bd. 1: Ziele und Grundlagen der Bilanzkritik (=Bücherei für Bilanz und Steuern:Bd. 14.)</i>	ドイツ語	1926
55	le Coutre, Walter	<i>Praxis der Bilanzkritik:Bd. 2: Kritik der Vermögenslage (=Bücherei für Bilanz und Steuern:Bd. 15.)</i>	ドイツ語	1926
56	le Coutre, Walter	<i>Die allgemeinen Lehren 2. umgearb. Aufl.(Gloeckners Handels-Bücherei:Bd. 81. Grundzüge der Bilanzkunde:Bd. 1)</i>	ドイツ語	1927
57	le Coutre, Walter	<i>Die allgemeinen Lehren 2. umgearb. Aufl.(Gloeckners Handels-Bücherei:Bd. 81. Grundzüge der Bilanzkunde:Bd. 1)</i>	ドイツ語	1927
58	le Coutre, Walter und Richard Altenloh	<i>Steuerbilanz und Goldbilanz(Gloeckners Handels-Bücherei:Bd. 99. Grundzüge der Bilanzkunde:Bd. 3)</i>	ドイツ語	1924
59	Leake, P.D.	<i>Depreciation and wasting assets and their treatment in computing annual profit and loss 4th ed</i>	英語	1923

わが国近代会計学と阿久津文庫の形成

60	Leake, P.D.	<i>Balance sheet values</i>	英語	1929
61	Lion, Max	<i>Wahre Bilanzen! : ein Beitrag zur Vereinheitlichung von Handelsbilanz und Steuerbilanz(Gesellschaftsrechtliche Abhandlungen:Heft 3)</i>	ドイツ語	1927
62	Lion, Max	<i>Geschichtliche Betrachtungen zur Bilanztheorie bis zum allgemeinen deutschen Handelsgesetzbuch</i>	ドイツ語	1928
63	Lion, Max	<i>Die dynamische Bilanz und die Grundlagen der Bilanzlehre(Zeitschrift für Betriebswirtschaft:3. Sonderheft 1928)</i>	ドイツ語	1928
64	Littleton, A.C.	<i>Accounting evolution to 1900</i>	英語	1933
65	Maas, René	<i>Die Auswertung des betrieblichen Rechnungswesens</i>	ドイツ語	1935
66	Mahlberg, Walter	<i>Bilanztechnik und Bewertung bei schwankender Währung(Betriebs- und finanzwirtschaftliche Forschungen:Heft 10)</i>	ドイツ語	1921
67	Mahlberg, Walter	<i>Goldkreditverkehr und Goldmark-Buchführung(Betriebswirtschaftliche Zeitfragen:Heft 4)</i>	ドイツ語	1923
68	Mahlberg, Walter	<i>Der Tageswert in der Bilanz(Betriebswirtschaftliches Archiv:1. Jahresband, 2. Heft)</i>	ドイツ語	1925
69	Mahlberg, Walter	<i>Grundriss der Betriebswirtschaftslehre - Revision und Treuhandwesen- Band 10</i>	ドイツ語	1926
70	Masi, Vincenzo	<i>La ragioneria come scienza del patrimonio</i>	イタリア語	1943
71	Masi, Vincenzo	<i>Manuale di ragioneria generale applicata alle imprese e agli enti</i>	イタリア語	1936
72	Minialow, Eduard	<i>Bilanzgeheimnisse : ein Buch für jedermann</i>	ドイツ語	1928
73	Mohr, Heinz	<i>Bilanz und immaterielle Werte(Betriebs- und finanzwirtschaftliche Forschungen:Serie 2, H. 30)</i>	ドイツ語	1927
74	NurmiLahti, V.P.	<i>Der formale Aufbau der Jahresvermögensbilanz</i>	ドイツ語	1937
75	Osbahr, Wilhelm	<i>Die Bilanz vom Standpunkt der Unternehmung : die bisherige und zukünftige Gestaltung der Grundfragen des Bilanzproblems 3. Aufl. / bearbeitet von H. Nicklisch</i>	ドイツ語	1923
76	Ottermann, Max Josef	<i>Bilanzwert und Bilanzgewinn im französischen betriebswirtschaftlichen Schrifttum(Wirtschaftswissenschaft Wirtschaftspraxis:Bd. 15)</i>	ドイツ語	1937
77	Pape, Ernst	<i>Grundsätzliches zur Frage der planmäßig-periodischen Kostenzahlenabschreibung(Zeitschrift für Betriebswirtschaft:4. Sonderheft, 1928)</i>	ドイツ語	1928
78	Paton, W. A.	<i>Accounting theory : with special reference to the corporate enterprise</i>	英語	1922
79	Paton, W. A.	<i>Accounting</i>	英語	1930
80	Paton, W. A. and R. A. Stevenson	<i>Principles of accounting</i>	英語	1921
81	Pixley, Francis W.	<i>How to read the balance sheet of a commercial concern, 6th ed</i>	英語	1924
82	Prater, Hans	<i>Abschreibungen zufolge Substanzverringierung : unter besonderer Heranziehung der einschlägigen Entscheidungen des Preußischen Oberverwaltungsgerichtes und des Reichsfinanzhofes(Veröffentlichungen des Instituts für Steuerkunde an der Handelshochschule Leipzig:Nr. 5)</i>	ドイツ語	1923
83	Rasch, Albert	<i>Geld und Konjunktur in der Jahresbilanz der privaten Unternehmung(Münsterer Wirtschafts- und Sozialwissenschaftliche Abhandlungen:Heft 14)</i>	ドイツ語	1933

84	Rieger, Wilhelm	<i>Schmalenbachs dynamische Bilanz : eine kritische Untersuchung</i>	ドイツ語	1936
85	Roche, Georges	<i>De la relativité des bilans : ses causes et ses conséquences au point de vue juridique et économique, ses remèdes</i>	フランス語	1932
86	Rorem, C. R.	<i>Accounting method</i> 2nd ed. / <i>with alternative laboratory exercises</i> (Materials for the study of business)	英語	1930
87	Rosenkampff, A. H. and G. L. Harris	<i>Business accounting : reading guide</i>	英語	1920
88	Rowland, S. W.	<i>Accounting</i> (Home university library of modern knowledge:182)	英語	1936
89	Rowland, Stanley W.	<i>Depreciation reconsidered</i>	英語	1933
90	Sabatier, Charles-Marie	<i>La mesure des affaires</i>	フランス語	1927
91	Saliers, Earl A.	<i>Principles of depreciation</i> (Ronald accounting series)	英語	1915
92	Saliers, Earl A.	<i>Depreciation : principles and application</i>	英語	1923
93	Sanders, T. H. , H. R. Hatfield and U. Moore	<i>A statement of accounting principles</i>	英語	1938
94	Schigut, Eugen	<i>Valutarische Buchhaltung : Verbuchung fremder Valuten, Goldbuchführung, Goldbilanz, 2., verb. Aufl</i>	ドイツ語	1923
95	Schmalenbach, E.	<i>Die Goldmarkbilanz</i>	ドイツ語	1924
96	Schmalenbach, E.	<i>Dynamische Bilanz, 6., Aufl</i>	ドイツ語	1933
97	Schmalenbach, E.	<i>Der Kontenrahmen, 4., neubearbeitete Aufl</i>	ドイツ語	1935
98	Schmidt, F.	<i>Bilanzwert, Bilanzgewinn und Bilanzumwertung</i> (Bücherei für Bilanz und Steuern:Bd. 11)	ドイツ語	1924
99	Schmidt, F.	<i>Die organische Tageswertbilanz, 3. durchgesehene und erweiterte Aufl</i>	ドイツ語	1929
100	Schnettler, Albert	<i>Das Rechnungswesen industrieller Betriebe</i>	ドイツ語	1938
101	Schwärzel, Konrad	<i>Ueber das Problem des Unternehmungsmehr- oder -minderwertes u. seine Bilanzierung : ein Lösungsversuch auf Grundlage der Rieger'schen Bilanzlehre</i>	ドイツ語	1937
102	Schwinger, Oskar	<i>Die landwirtschaftliche Bilanz</i>	ドイツ語	1926
103	Scott, D R	<i>Theory of accounts v. 1</i> (American business series)	英語	1925
104	Scott, D R	<i>The cultural significance of accounts</i>	英語	1931
105	Seed, H.E.	<i>Goodwill as a business asset</i>	英語	1937
106	Seidel, Karl	<i>Grundlagen und Funktionen der Buchhaltung</i> (Betriebswirtschaft:Heft 10)	ドイツ語	1933
107	Sewering, Karl	<i>Die Einheitsbilanz : die Überbrückung des Gegensatzes zwischen statischer und dynamischer Bilanzlehre</i>	ドイツ語	1925
108	Sommerfeld, Heinrich	<i>Die Wertansätze in der Inventur : mit Berücksichtigung steuerlicher Vorschriften, 2. Aufl</i> (Bücherei für Bilanz und Steuern:Bd. 4)	ドイツ語	1923
109	Stern, Robert	<i>Die Schillingwährung : Schillingrechnungs- und Goldbilanzengesetz und ihre Auswirkung auf Buchführung, Inventur und Bilanz</i>	ドイツ語	1925
110	Studt, Emil	<i>Die privatwirtschaftliche Erfolgsrechnung in den Vereinigten Staaten von Amerika</i> (Wirtschaftswissenschaft Wirtschaftspraxis:Bd. 4)	ドイツ語	1935
111	Sweeney, Henry W.	<i>Stabilized accounting</i>	英語	1936

112	Tovey, Philip	<i>Balance sheets : how to read and understand them : a guide for investors, business men, commercial students etc.</i> , Rev. and enl. ed	英語	1930
113	Waibel, Georg	<i>Wie behandle ich die Rechnungsabgrenzungsposten? (Transitorische posten) : Ein kleines aber wichtiges Kapitel der kaufmännischen Buchführung</i>	ドイツ語	1936
114	Walb, Ernst	<i>Abschreibung und Steuer (Kölner Industriehefte:Heft 12. Fragen des geltenden Steuerrechts : eine Vortragsreihe:2)</i>	ドイツ語	1930
115	Wall, Alexander	<i>How to evaluate financial statements</i>	英語	1936
116	Woodson, E.R.	<i>Railway accounting procedure</i> , 1924 ed	英語	1924
117	Zappa, Gino	<i>Tendenze nuove negli studi di ragioneria : discorso inaugurale dell'anno accademico 1926-27 nel R. Istituto Superiore di Scienze Economiche e Commerciali di Venezia</i>	イタリア語	1927
118	Zappa, Gino	<i>Le valutazioni di bilancio con particolare riguardo ai bilanci delle società per azioni</i> Ristampa	イタリア語	1927

(4) 「原価計算」関係図書

資料4は、阿久津文庫280点あまりの図書のうち、「原価計算」と分類した33冊のリストである。言語によってさらに区分すると、ドイツ語が18冊、英語13冊、イタリア語とフランス語がそれぞれ1冊である。

これらのうち、ニコルソンとローバック(Nicholson and Rohrbach) (1919) [28] は伊藤正一によって『ニコルソン及ロールバッハ原価計算論』(1927)として、また、シュマーレンバッハ(Schmalenbach) (1934) [32] は、土岐

政蔵によって『シュマーレンバッハ・原価計算と価格政策(上)(下)』(1941/42)として日本語に翻訳されて出版されているが、後者は阿久津桂一の死後に出版されている。

阿久津の指導教官でありまた上司でもあった吉田良三は、前記のように、『間接費の研究』を1936年に公刊している。吉田良三が工業会計・原価計算の研究に集中していたまさに同時期にこれらの文献が集められている。吉田と阿久津の両者の学問的交流の緊密さが想像される。

資料4 阿久津文庫を構成する「原価計算」関係図書

番号	著者	書名	言語	刊行年
1	Ainsworth, Wilfred	<i>Cost accounting : its higher organization and control</i>	英語	1924
2	Bergamaschi, Oreste	<i>Ragioneria industriale 5a ed. (Manuali Hoepli)</i>	イタリア語	1926
3	Bergmeir, Hans	<i>Der organische Aufbau des industriellen Rechnungswesens insbesondere die Zwei- und Dreiteilung der Abrechnung(Betriebswirtschaftliche Zeitfragen:3. Heft)</i>	ドイツ語	1926
4	Beste, Theodor	<i>Die Verrechnungspreise in der Selbstkostenrechnung industrieller Betriebe(Betriebswirtschaftliche Zeitfragen:Heft. 5)</i>	ドイツ語	1924
5	Bourquin, Maurice	<i>Méthodes modernes de répartition et de contrôle des frais généraux dans l'industrie</i>	フランス語	1937
6	Bunbury, Henry	<i>Overhead costs : their new economic significance in industry(Pitman's economics series)</i>	英語	1931
7	Church, A. Hamilton	<i>Manufacturing costs and accounts</i>	英語	1917
8	Clark, J. Maurice	<i>Studies in the economics of overhead costs</i>	英語	1923

9	Department of manufacture, Chamber of commerce of the United States	<i>The evolution of overhead accounting : Part I. Basic principles in the treatment of manufacturing overhead. Part II. Designing the overhead structure</i>	英語	1927
10	Dohr, James L., Howell A. Inghram and Andrew L. Love	<i>Cost accounting : principles and practice</i> , 2nd rev. ed (University accounting series)	英語	c1935
11	Dohr, James L., Howell A. Inghram and Andrew L. Love	<i>Cost accounting practice problems</i> (University accounting series)	英語	1936
12	Dürheim, Josef	<i>Die Lohnbuchhaltung im Fabrikbetriebe(Moderne Handelsbroschüren)</i>	ドイツ語	1925
13	Eggleston, DeWitt Carl	<i>Problems in cost accounting(The college of the city of New York series in commerce, civics and technology : a series of texts by specialists)</i>	英語	1925
14	Fiala, Erich	<i>Die ökonomische Zurechnung und das betriebliche Rechnungswesen</i>	ドイツ語	1934
15	Henzel, Fritz	<i>Erfassung und Verrechnung der Gemeinkosten in der Unternehmung(Betriebs- und finanzwirtschaftliche Forschungen:II. Serie, Heft 51)</i>	ドイツ語	1931
16	Hilgert, Joseph Robert	<i>Cost accounting for sales</i>	英語	1926
17	Jordan, J.P. and Gould L. Harris	<i>Cost accounting : principles and practice</i> , 2nd ed., rev	英語	1925
18	Jung, Ludwig	<i>Der kapitalzins in der industriellen Selbstkostenrechnung : Inaugural-Dissertation zur Erlangung der Doktorwürde der Wirtschafts- und Sozialwissenschaftlichen Fakultät der Universität Köln</i>	ドイツ語	1926
19	Lawrence, W.B.	<i>Cost accounting</i>	英語	1927
20	Lawrence, W.B.	<i>Cost accounting</i> Rev. ed(The coördinated accounting series)	英語	1937
21	le Coutre, Walter	<i>Selbstkostenberechnung</i>	ドイツ語	1927
22	Lehmann, M.R.	<i>Die industrielle Kalkulation(Bücherei für Industrie und Handel:Bd. 7)</i>	ドイツ語	1925
23	Lilienthal, J.	<i>Fabrikorganisation, Fabrikbuchführung und Selbstkostenberechnung der Firma Ludw. Loewe & Co. Actiengesellschaft, Berlin</i>	ドイツ語	1907
24	Löwenstein, Rudolf	<i>Kalkulationsgewinn und bilanzmäßige Erfolgsrechnung in ihren gegenseitigen Beziehungen(Betriebs- und finanzwirtschaftliche Forschungen:Hft. 16)</i>	ドイツ語	1922
25	Mellerowicz, Konrad	<i>Theorie der Kosten(Kosten und Kostenrechnung:Bd. 1)</i>	ドイツ語	1933
26	Mellerowicz, Konrad	<i>Grundlagen und Verfahrensweisen(Kosten und Kostenrechnung:Bd. 2. Kostenrechnung:T. 1)</i>	ドイツ語	1936
27	Mellerowicz, Konrad	<i>Anwendung(Kosten und Kostenrechnung:Bd. 2. Kostenrechnung:T. 2)</i>	ドイツ語	c 1936
28	Nicholson, J. Lee and John F.D. Rohrbach	<i>Cost accounting</i>	英語	1919
29	Penndorf, Balduin	<i>Fabrikbuchhaltung und ihr Zusammenhang mit Kalkulation und Statistik(Bücherei für Industrie und Handel:Bd. 3)</i>	ドイツ語	1924
30	Rahm, Walter	<i>Die Unkosten im Fabrikbetrieb : ihre Ermittlung, Kontrolle, Verrechnung und Statistik</i>	ドイツ語	1927

31	Schär, J. F.	<i>Die Fabrikbuchhaltung 16. Aufl(System Schär-Langenscheidt kaufmännische Unterrichtsstunden : vollständiger Lehrgang der praktischen Handelswissenschaften für den Selbstunterricht:Kurkus 1, Buch 4)</i>	ドイツ語	1929
32	Schmalenbach, E.	<i>Selbstkostenrechnung und Preispolitik 6., erw. Aufl</i>	ドイツ語	1934
33	Sperlich, A.	<i>Unkostenkalkulation : nebst Anhang, Kontrolle der Selbstkostenberechnung für industrielle Betriebe, für deren Fabrikate die Nachkalkulation nach dem Fortschreibungssystem sich nicht eignet 4. Aufl</i>	ドイツ語	1925

(5) 「その他」関係図書

資料5は、阿久津文庫280点あまりの図書のうち、「その他」と分類した89冊のリストである。言語によってさらに区分すると、ドイツ語が73冊、英語12冊、フランス語が4冊である。

会計学領域に直接関係しないとみなしたものをすべて「その他」と分類したが、その内容は多様である。会計学に近いものとして、財務論、企業分析、企業評価、経営経済学などがある。

これらの領域は、阿久津桂一が執筆した論文等のなかに直接的・間接的に反映されているものが少なくない。また、経済学、経済政策、金融論・銀行論、社会学、社会教育論、労働論、民法など研究とは直接には関係がないと思われる蔵書もある。阿久津がどのような動機で、当時からたいへん貴重で高価だったこれら洋書を収集したかを想像することは興味深い。

資料5 阿久津文庫を構成する「その他」の図書

番号	著者	書名	言語	刊行年
1		<i>Geldentwertung und Unternehmung : drei Vorträge, gehalten auf dem 13. Verbandstage des Verbandes Deutscher Bücherrevisoren eingetragenen Vereins, beeidigter oder behördlich geprüfter kaufmännischer Sachverständiger am 9. und 10. September zu Würzburg(Betriebs- und finanzwirtschaftliche Forschungen:/ II. Serie, Heft 1)</i>	ドイツ語	1923
2		<i>Wirtschaftskunde 2. Bd. 4. Heft(Teubners Handbuch der Staats- und Wirtschaftskunde/2/Abt .)</i>	ドイツ語	1924
3	Anderson, B.M.	<i>Social Value : a study in economic theory critical and constructive(Hart, Schaffner & Marx prize essays/11)</i>	英語	1911
4	Ashley, William	<i>Business economics</i>	英語	1926
5	Beuck, W.	<i>Fragen der Betriebsbewertung : Grundsätzliches über Abschreibungen, Reserven und Minderbewertungen(Veröffentlichungen des Instituts für Steuerkunde an der Handelshochschule Leipzig:Nr. 8)</i>	ドイツ語	1925
6	Bücher, Beiträgen K. [et al.]	<i>Wirtschaft und Wirtschaftswissenschaft 2., erw. Aufl(Grundriss der Sozialökonomik:Abt. 1. Historische und theoretische Grundlagen:T. 1)</i>	ドイツ語	1924
7	Büchner, Richard	<i>Nationalökonomie und Betriebswirtschaftslehre(Mitteilungen aus dem handelswissenschaftlichen Seminar der Universität Zürich:n. F.:Heft. 50)</i>	ドイツ語	1931
8	Calmès, Albert	<i>Administration financière : des entreprises et des sociétés</i>	フランス語	1925
9	Cassel, Gustav	<i>Theoretische Sozialökonomie 4., verb. und wesentlich erw. Aufl</i>	ドイツ語	1927
10	Cole, G.D.H.	<i>Organised labour : an introduction to trade unionism</i>	英語	1924
11	Cole, G.D.H.	<i>Gold, credit & employment : four essays for laymen</i>	英語	1930

12	Diehl, Karl	<i>Die rechtlichen Grundlagen des Kapitalismus(Kieler Vorträge:29)</i>	ドイツ語	1929
13	Dusemund, Franz Josef	<i>Der betriebswirtschaftliche Gewinnbegriff in seiner historischen Entwicklung(Zeitschrift für Handelswissenschaft und Handelspraxis:Beihefte Heft 1)</i>	ドイツ語	1929
14	Endemann, Wilhelm	<i>Das deutsche Handelsrecht 4. Aufl.</i>	ドイツ語	1887
15	Faulenbach, Rudolf	<i>Mengenverrechnung in der Industrie Barmer Artikel : ein Beitrag zur Divisionskalkulation und Betriebsstatistik(Betriebswirtschaftliches Archiv:1. Jahresbd., 1. Heft)</i>	ドイツ語	1924
16	Findeisen, Franz	<i>Die Reserven der Unternehmung mit besonderer Berücksichtigung der Steuer(Bücherei für Bilanz und Steuern:Bd. 7)</i>	ドイツ語	1922
17	Fleege-Althoff, Fritz	<i>Grundzüge der allgemeinen Betriebswirtschaftslehre(Universal-Bibliothek:Nr. 7283. Wirtschaftslehre:18)</i>	ドイツ語	1934
18	Fuchs, Carl Johannes	<i>Volkswirtschaftslehre 5. Aufl.(Sammlung Göschen:133)</i>	ドイツ語	1925
19	Gerstner, Paul	<i>Betriebs-Analyse : Wege zur Erkenntnis von Gesetzmäßigkeiten in der Betriebswirtschaft, 2. durchgesehene Aufl</i>	ドイツ語	1936
20	Gerstner, Paul	<i>Die Wirtschaftsrechnung der Unternehmung : Klarlegung der Erfolgsquellen mit Formblatt</i>	ドイツ語	1937
21	Gide, Charles	<i>Principes d'économie politique 10e éd., corr. et augm</i>	フランス語	1906
22	Hasenack, Wilhelm	<i>Betriebskalkulationen im Bankgewerbe(Bank- und finanzwirtschaftliche Abhandlungen:Heft 5)</i>	ドイツ語	1925
23	Holländer, Ulrich	<i>Die Unternehmungsform als wirtschaftlicher Faktor</i>	ドイツ語	1927
24	Hummel, Otto, et al.	<i>Heinrich Nicklisch und sein Werk : eine Aufsatzfolge : als Festgabe zum 60. Geburtstage (19. Juli 1936)</i>	ドイツ語	1936
25	Ihering, Rudolf	<i>Der Kampf ums Recht, 18. Aufl</i>	ドイツ語	1913
26	Isaac, Alfred	<i>Über das Selbstkostenproblem im Bankgetriebe(Betriebs- und finanzwirtschaftliche Forschungen:Heft 11)</i>	ドイツ語	1921
27	Isaac, Alfred	<i>Über das Selbstkostenproblem im Bankgetriebe(Betriebs- und finanzwirtschaftliche Forschungen:Heft 11)</i>	ドイツ語	1921
28	Isaac, Alfred	<i>Die Entwicklung der wissenschaftlichen Betriebswirtschaftslehre in Deutschland seit 1898(Betriebs- und finanzwirtschaftliche Forschungen:2.Serie, Heft8)</i>	ドイツ語	1923
29	Jaspers, Karl	<i>Max Weber : deutsches Wesen im politischen Denken, im Forschen und Philosophieren</i>	ドイツ語	1932
30	Karl, Diehl	<i>Einleitung in die Nationalökonomie(Theoretische Nationalökonomie:1. Bd.)</i>	ドイツ語	1916
31	Leaf, Walter	<i>Banking(Home university library of modern knowledge:124)</i>	英語	1926
32	Lehmann, M.R.	<i>Die Wirtschaftlichkeit des Betriebes und der Unternehmung(Nürnberger Beiträge zu den Wirtschaftswissenschaften:H. 9)</i>	ドイツ語	1928
33	Lehmann, M.R.	<i>Planvolles Rechnen in Betrieb und Gruppe : ein Beitrag zur Wertschöpfungs- und Wirtschaftlichkeits-Rechnung</i>	ドイツ語	1937
34	Leitner, Friedrich	<i>Die Beziehungen zwischen Buchhaltung, Wirtschaft und Volkswirtschaftslehre : Vortrag(Schriften des deutschen volkswirtschaftlichen Verbandes:Bd. 3, Heft 5)</i>	ドイツ語	1910
35	Leitner, Friedrich	<i>Renaissance der Privatwirtschaftslehre(Einzelwirtschaftliche Abhandlungen/H/5)</i>	ドイツ語	1931

わが国近代会計学と阿久津文庫の形成

36	Löffelholz, Josef	<i>Geschichte der Betriebswirtschaft und der Betriebswirtschaftslehre : Altertum--Mittelalter--Neuzeit bis zu Beginn des 19. Jahrhunderts(Betriebswirtschaftliche Abhandlungen:Bd. 23)</i>	ドイツ語	1935
37	Lohmann, Martin	<i>Betriebswirtschaftslehre : Wirtschaftslehre der gewerblichen Unternehmungen</i>	ドイツ語	c1936
38	Lough, William H.	<i>Business finance : a practical study of financial management in private business concerns</i>	英語	1917
39	Mabit, Jean	<i>La restauration monétaire et les bilans : l'instabilité du franc et l'économie privée, répercussions fiscales de l'inflation, la valorisation de l'actif des entreprises et la péréquation de leur capital, 2e éd</i>	フランス語	1928
40	Mackenzie, Kenneth	<i>The banking systems of Great Britain, France, Germany & the United States of America</i>	英語	1932
41	Mahlberg [et al.]	<i>Die Betriebsverwaltung (Grundriß der betriebswirtschaftslehre:Band 2)</i>	ドイツ語	1927
42	Mahlberg, Walter	<i>Die Notwendigkeit der Goldmarkverrechnung im Verkehr</i>	ドイツ語	1922
43	Marshall, Alfred	<i>Money credit & commerce</i>	英語	1923
44	Mayer, Johannes	<i>Preisbildung und Preisprüfung in der Kriegswirtschaft (Schriften zur kriegswirtschaftlichen Forschung und Schulung)</i>	ドイツ語	c1937
45	McKinsey, James O.	<i>Budgetary control</i>	英語	1923
46	Mead, Edward Sherwood	<i>Corporation finance, 6th ed.</i>	英語	1930
47	Mellerowicz, Konrad	<i>Grundlagen betriebswirtschaftlicher Wertungslehre (ein Beitrag zur Theorie der Betriebswirtschaftslehre)</i>	ドイツ語	1926
48	Mellerowicz, Konrad	<i>Allgemeine Betriebswirtschaftslehre der Unternehmung(Sammlung Götschen:1008)</i>	ドイツ語	1929
49	Mill, John Stuart	<i>Principles of political economy with some of their applications to social philosophy</i>	英語	1926
50	Moral, Felix	<i>Die Abschätzung des Wertes industrieller Unternehmungen, 2., verb. u. verm. Aufl</i>	ドイツ語	1923
51	Müller, Alfred	<i>Ökonomische Theorie der Konjunkturpolitik(Kölner wirtschafts- und sozialwissenschaftliche Studien:Folge 2, Heft 1)</i>	ドイツ語	1926
52	Nicklisch, Heinrich	<i>Allgemeine kaufmännische Betriebslehre als Privatwirtschaftslehre des Handels (und der Industrie) Bd. 1</i>	ドイツ語	1912-
53	Nicklisch, Heinrich	<i>Wirtschaftliche Betriebslehre, 6. Aufl</i>	ドイツ語	1922
54	Nicklisch, Heinrich	<i>Die Betriebswirtschaft, 7. Aufl 2. Lfg</i>	ドイツ語	1929-1932
55	Nicklisch, Heinrich	<i>Die Betriebswirtschaft, 7. Aufl 3. Lfg</i>	ドイツ語	1929-1932
56	Nicklisch, Heinrich	<i>Handwörterbuch der Betriebswirtschaft, 2. Aufl.</i>	ドイツ語	1937-
57	Pannier, Karl	<i>Bürgerliches Gesetzbuch für das deutsche Reich nebst dem Einführungsgesetz zum Bürgerlichen Gesetzbuche vom 18. August 1896 : Textausgabe mit Einleitung und Sachregister 29. Aufl(Universal-Bibliothek:Nr. 3571-3575a)</i>	ドイツ語	1899
58	Passow, Richard	<i>Die gemischt privaten und öffentlichen Unternehmungen auf dem Gebiete der Elektrizitäts- und Gasversorgung und des Strassenbahnwesens 2., unveränderte Aufl(Beiträge zur Lehre von den industriellen, Handels- und Verkehrsunternehmungen:Heft 8)</i>	ドイツ語	1923

59	Peiser, Herbert	<i>Grundlagen der Betriebsrechnung in Maschinenbauanstalten, 2., erheblich erw. Aufl</i>	ドイツ語	1923
60	Plitzka, Richard	<i>Versuch einer zirkulatorischen Betrachtungsweise in der Betriebswirtschaftslehre(Betriebswirtschaft:Heft 20)</i>	ドイツ語	1935
61	Pohle, Ludwig	<i>Die Entwicklung des deutschen Wirtschaftslebens im 19. Jahrhundert : fünf Vorträge(Aus Natur und Geisteswelt : Sammlung wissenschaftlich-gemeinverständlicher Darstellungen:Bd. 57)</i>	ドイツ語	1904
62	Rahm, Walter	<i>Das Material im Fabrikbetrieb : Einkauf, Lagerung, Kontrolle und Verrechnung</i>	ドイツ語	1929
63	Rasch, Albert	<i>Allgemeine Betriebswirtschaftslehre(Gloeckners Handels-Bücherei:Bd. 100)</i>	ドイツ語	1931
64	Rieger, Wilhelm	<i>Über Geldwertschwankungen</i>	ドイツ語	1938
65	Röpke, W.	<i>Finanzwissenschaft</i>	ドイツ語	1929
66	Schär, J. F.	<i>Technik des Bankgeschäftes : Darstellung der Bankbuchhaltung, des Kontokorrents mit Zinsen sowie der Wechselrechnung, Wechselarbitrage und Effektenrechnung 3., neu bearb. Aufl(Maier-Rothschild-Bibliothek:Bd. 16 und 17)</i>	ドイツ語	1908
67	Schiff, Emil	<i>Die Wertminderungen an Betriebsanlagen : in wirtschaftlicher, rechtlicher und rechnerischer Beziehung</i>	ドイツ語	1909
68	Schmalenbach, E.	<i>Die Aufstellung von Finanzplänen</i>	ドイツ語	1931
69	Schmalenbach, E.	<i>Finanzierungen, 6. Aufl.</i>	ドイツ語	1937
70	Schmaltz, Kurt	<i>Betriebsanalyse(Die Bücher 'Organisation' :Bd. 10)</i>	ドイツ語	1929
71	Schmidt, Arthur B.	<i>Handelsgesetzbuch, Wechselordnung, Scheckgesetz mit den wichtigsten Ergänzungsesetzen : Textausgabe mit Anmerkungen und Sachverzeichnis</i>	ドイツ語	1932
72	Schmidt, F.	<i>Internationaler Zahlungsverkehr und Wechselkurse, 2. Aufl.(Der Zahlungsverkehr/Bd2)</i>	ドイツ語	1922
73	Schmidt, F.	<i>Die Industriekonjunktur : ein Rechenfehler!(Zeitschrift für Betriebswirtschaft:2. Sonderheft 1927)</i>	ドイツ語	1927
74	Schmidt, F.	<i>Kalkulation und Preispolitik</i>	ドイツ語	1930
75	Schmidt, F.	<i>Betriebswirtschaftliche Konjunkturlehre, 4. Aufl.</i>	ドイツ語	1933
76	Schönfeld, Leo	<i>Grenznutzen und Wirtschaftsrechnung</i>	ドイツ語	1924
77	Schuster, Ernst	<i>Das Einkommen, eine kritische Untersuchung</i>	ドイツ語	1926
78	Schütz, Alexander	<i>Abschreibungsbegriff und Abschreibungsmethoden im betriebswirtschaftlichen Schrifttum</i>	ドイツ語	1928
79	Sieber, Eugen H.	<i>Objekt und Betrachtungsweise der Betriebswirtschaftslehre(Betrieb und Unternehmung, Wirtschaftswissenschaftliche Abhandlungen:Bd. 12)</i>	ドイツ語	1931
80	Sombart, Werner	<i>Nationalökonomie und Soziologie(Kieler Vorträge:33)</i>	ドイツ語	1930
81	Spann, Othmar	<i>Fundament der Volkswirtschaftslehre, 3. Aufl.</i>	ドイツ語	1923
82	Spann, Othmar	<i>Gesellschaftslehre, 2., neubearbeitete Aufl</i>	ドイツ語	1923
83	Stammler, Rudolf	<i>Wirtschaft und Recht nach der materialistischen Geschichtsauffassung : eine sozialphilosophische Untersuchung, 4. Aufl.</i>	ドイツ語	1921
84	Stolzmann, Rudolf	<i>Grundzüge einer Philosophie der Volkswirtschaft : Versuch einer Volkswirtschaftslehre auf philosophischem Grunde, 2., vervollständigte Aufl</i>	ドイツ語	1925

わが国近代会計学と阿久津文庫の形成

85	Stolzmann, Rudolf	<i>Die Krisis in der heutigen Nationalökonomie : dargestellt an literarischen Neuerscheinungen, mit Vorschlägen zur Überwindung der Krise</i>	ドイツ語	1925
86	Töndury, Hans	<i>Wesen und Aufgabe der modernen Betriebswirtschaftslehre : erweiterte Antrittsvorlesung(Berner wirtschaftswissenschaftliche Abhandlungen:Heft 1)</i>	ドイツ語	1933
87	Vershofen, Wilhelm	<i>Die Grenzen der Rationalisierung : gesammelte Aufsätze und Vorträge</i>	ドイツ語	1927
88	Withers, Hartley	<i>Stocks and shares</i> , 2nd ed	英語	1917
89	Worms, René	<i>La sociologie : sa nature, son contenu, ses attaches</i> (<i>Bibliothèque sociologique internationale:sér. in-18. J</i>)	フランス語	1921

参考文献

- 阿久津桂一（1940）『減価償却に於ける時価論』森山書店。
- 工藤栄一郎（2012）「熊本商科大学の昇格と阿久津文庫」『熊本学園大学産業経営研究』第31号、91-112頁。
- 黒沢 清（1982）『日本会計学発展史序説（付「会計」目次索引）』雄松堂書店。
- 玉置紀夫（2002）『起業家福沢諭吉の生涯』有斐閣。
- 西川孝次郎（1982）『日本簿記学生成史』雄松堂書店。
- 日本会計研究学会近代会計制度百周年記念事業委員会〔編著〕（1978）『近代会計百年』日本会計研究学会。
- 畠中福一（1932）『勘定学説研究』森山書店。
- 藤井康之（2008）「簿記関係各種学校の変容」、土方苑子（編）『各種学校の歴史的研究—明治東京・私立学校の原風景—』東京大学出版会、173-198頁。
- 吉田良三（1936）『間接費の研究』森山書店。

謝辞

阿久津文庫のデータ提供をはじめ、この小文をまとめるにあたって、熊本学園大学附属図書館課長の津村秀夫氏に多大な協力を得た。記して感謝申し上げる。なお、小文中にありうべき誤謬や誤解についてはすべて筆者の責に帰する。

本研究は熊本学園大学産業経営研究所の研究助成金（平成24年度）による。

